

令和5年度 後期学校評価

那珂川町立馬頭中学校

生徒像	努力点	具 体 策	評 価 4点満	反 省 点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
1 多 様 性 を 認 め 合 い 、 協 働 す る 生 徒	(1) 自己有用感を高める指導の充実	① 互いに認め合える学年・学級経営を行ったか。	3.3	①各学年や学級の実態に応じて、工夫を凝らした経営ができていた。 ②体験活動は、各学年で豊富に設定されていたが、振り返りや事後の活用が不十分であった。 ③生徒集会等、生徒が主体的かつ意欲的に活動する様子が見られた。	②体験活動後の報告会を行ったり、HPを活用して活動の様子を発信したりするとよい。また、下級生にお手本を見せる意味で引き継ぎをする機会を持るとよい。 ③打ち合わせと集会を別日にするとよい。	○体験活動をととして、「自分の良さ」に気づかせる取り組みを行っていただきたいです。 ・ねらいをしばり、丁寧な説明をする。 ・体験活動後の感想を書き、積み重ねていく。→ 私の3年間の歩み ○引き続き、各学年・学級の実態に合わせた経営をしていただきたいです。 ○校内教育支援センターが開設され、相談ができる環境が充実することを期待します。
		② 豊富な体験活動を設定できたか。	2.9			
		③ 係や委員会活動の充実を図れたか。	3.1			
(2) 多様性を認め、協調性を高める指導の工夫	① 教育相談を活用し、生徒理解を徹底できたか。	3.4	①心のアンケートを活用し、充実した教育相談が実施できている。 ②外部機関と連携し、個に応じた指導が丁寧にできている。	開設が予定されている校内教育支援センターを活用し、不登校生徒や不安傾向の生徒の対応を丁寧に行えるとうい。	○R6年度に開設される校内教育支援センターが、支援の必要なお子さんの指導につながることを希望します。 ○不登校生徒さんに対しては、つながりを大切に丁寧な対応がされるとよいと思います。	
	② 個に応じた生徒指導の充実を図ったか。	3.4				
	③ 係や委員会活動の充実を図れたか。	3.1				
(3) 遵法精神を育む指導の充実	① 規範意識の高揚とルールの徹底を図ったか。	3.1	①教職員側が一貫した指導を徹底する必要がある。また、根気強く声かけを続けていかなければならない。 ②ローテーション道徳など、生徒が多様な価値観に触れる機会を設定することができた。	①生徒心得を見直し、生徒にも教員にも分かりやすい基準を設定する。4月のスタート時に徹底した指導を行う。 ②ローテーション道徳を行うのならば、評価の仕方や研修の意味合いを検討する必要がある。		
	② 教育活動全体を通じた道徳教育の推進ができたか。	3.1				
	③ 係や委員会活動の充実を図れたか。	3.1				
2 自 分 で 考 え 、 判 断 し 、 自 立 し た 生 徒	(1) 確かな学力の向上を図る学業指導の充実と授業の改善	① 学びに向かう集団の基礎づくりを図ったか。	3.0	・学力向上コーディネーターによる研究授業や学校課題（アウトプット）への取り組みにより、授業改善を行ってきた。その結果、わずかではあるものの学力は向上してきた（とちぎっ子学力調査より）。一方で、主体的に学びに向かう集団作りという点では取り組み方、結果共に不十分であった。	・授業中の学習形態を工夫して、学び合いの雰囲気を醸成する。 ・とちぎっ子学力調査、全国学力調査、町学力調査などの分析を行い、授業改善に生かす。	○習熟の差が大きく、一斉授業が難しい教科については、学習形態や指導の工夫を行うなど、授業改善をしていただきたいです。 ・教員の増員、ICTの活用 → 町教育委員会からの支援 ○学力調査をしっかりと分析されることで、生徒の主体的な学びにつながるよう工夫がされるとよいと思います。 ○引き続き、個々の学力、生活力に応じた指導・支援が行われることで、学力の向上や生徒の自立を促していただきたいです。
		② 学習形態を工夫し、学び合える授業の実践を図ったか。	3.2			
		③ 基礎的・基本的内容の確実な定着を図ったか。	3.1			
(2) 個に応じた指導方法の工夫・改善	① 個人の学力・生活力に応じた指導・支援の工夫を行ったか。	3.1	・2学年数学科の習熟度別授業を始めとして、TTの効果的な活用が活発に行われるようになった。一方で、特に支援を要する生徒の学力向上にまでは至っていない。	・1クラスを半分にするなど、習熟度別授業における1クラスの人数を減らす。 ・時間割の中に位置づけるなど、教科部会の充実を図る。		
	② 教員間の情報交換を行い、連携した指導・支援を行ったか。	3.3				
	③ 数学科を中心とした効果的なTTの研究と実践を図ったか。	3.5				
(3) 自分の生き方を考える教育の充実	① 各学年の発達段階に応じたキャリアプランニング能力の育成を図ったか。	2.9	・キャリアパスポートをデジタル化することができた。一方で、その効果的な活用までは至っていない。その結果、発達段階に応じたキャリアプランニング能力の育成は十分にはできていない。	・デジタル化したキャリアパスポートを振り返る時間を設けて、その後の活動に生かせるようにする。		
	② キャリアパスポートの自校化（デジタル化）を推進し、その効果的な活用を促したか。	2.6				

教育目標	努力点	具 体 策	評 価 4点満	反 省 点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
3 夢 や 志 を も ち 、 挑 戦 し 続 け る 生 徒	(1) 体力向上の推進	① 新体力テストの分析結果を踏まえ、保体科授業で補強運動を実施できたか。	3.2	①毎時間の実施は難しかった。全身持久力を向上させたかったが、時間との兼ね合い、生徒のモチベーションの観点などから毎時間の実施ができなかった。	①パターン化し、短時間で最大限の効果を発揮できるようにする。 ②全員加入制の見直しを行う。 ③体力向上は、各部活動単位で実施する。(メニューをそろえるなど)	○教育相談の一層の充実(いじめ・不登校への対応)を図っていただきたいです。 ・勉強、部活動、友人、家庭等の悩みを聞く。 ○部活動の全員加入制の見直しにあたっては、生徒個人の思いだけでなく、モチベーションが上がるような工夫にも取り組んでいただきたい。面倒だから入らないといったことで、生徒の貴重な部活動をととした体験活動や精神面の成長に悪影響が出ないよう、寄りそった支援をお願いしたいです。
		② 心身の強化を図るための、魅力ある部活動運営に努めたか。	3.2	②部活に対する意欲が低い生徒に引っ張られ、運営が難しい部がある。		
	③ ニーズに応じた朝の体力向上トレーニングの運営に努めたか。	2.9	③年間を通しての実施ができなかった。			
(2) 健康教育の充実	② 健康教育の充実	① 基本的な生活習慣の確立に努めたか。	2.9	①働きかけはしたが、効果は得られず。家庭の協力が必要不可欠。	①授業参観で親子健康教室を実施する。 ②講演会を実施する。校内教育支援センターの運営を教職員が連携して行う。 ③自己管理能力を高める指導を行う。	
		② 心の健康教育の充実を図ったか。	3.2	②心の状態が不安定な生徒が相変わらず多い。自己解決できない生徒が多い。		
		③ 疾病や怪我の予防に努めたか。	3.4	③感染症が蔓延した。、		
(3) 安心・安全な学校づくりの推進	② 交通ルールの遵守の徹底を行ったか。	① 生徒の安全意識を高める日常指導を行ったか。	3.2	①下校時、バスを見送る生徒が多い。その結果、徒歩通学生徒が帰る時にはもう暗くなっている。	・徒歩下校の生徒と、バス下校の生徒で時間を区切る。例えば、バス発車時刻の5分前にそれ以外の生徒の完全下校などの対応を行う。	
		② 交通ルールの遵守の徹底を行ったか。	3.1			

	努力点	具 体 策	反 省 点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
徳 ・ 知 ・ 体 を 支 え る た め の 4 つ の 方 策	(1) 地域とともにある学校づくり	① 学校運営協議会の協働的な運営を図ったか。 ・1年生は地域の歴史や特徴について地域の方から学ぶ。 ・2年生はマイ・チャレンジ活動を通じて地域産業を学ぶ。 ・3年生は地域貢献活動などでリーダーシップを発揮する。	①講師の先生方から有意義な話を聞くことができ、生徒は関心をもって学ぶことができた。 ・2年生のマイ・チャレンジでは、サービス業が多かったので、地域の産業である農業や水産業などにマイ・チャレンジに行けるとさらに良いのではないかと。 ・総合などを通じて、地域を学ぶ活動を数多く行えた。次年度へ向けて活動を引き継いでいけるとよい。	①について、さらに、学んだテーマについて学びを深める活動ができるとさらに実のある活動になった。身近な場所で実際に働いている人々からお話を聞いたり、生徒が出向いて見学したりしてもよかった。	○学校、家庭、地域が一体となって、生徒の「やる気」を育成する言葉かけを行っていただきたいです。 ・「○○さん、ありがとう。頑張っているね。応援しているよ。」 「△△さん、すごいね。すばらしいね。」等 みんなで声かけを実践し、生徒のやる気を引き出していく運動をしていただきたいです。 ○1年生の総合的な学習については、講師の人選について広く住民・企業の方に声をかけ実施できればよいと思います。 ○3年生の総合的な学習においても、初回である卒業生との懇談会の講師を遠方より2名の方に依頼したが、次年度実施する場合は、年齢的にもより中学生に近く、近隣の方に依頼した方がよいと思います。 ○2年生のマイ・チャレンジでは、反省点にあるように、地域ならではの体験活動を重視した事業所の開拓が必要だと思えます。 ○学校外に向けての発信力をもっと強化するとよいと思います。 ○「地域とともにある学校づくり」については、もっと地域に頼ってよいと思います。 ○(3)(4)については、外部からは成果が見にくいです。
		② ホームページ、各種たよりの発信を充実させたか。	②ホームページが充実しており、各種たよりの定期的な情報発信されていた。	②学校評価から、ホームページを見ている生徒や保護者が少ないので、見られるような働きかけがあるとよい。	
	(2) 小中高連携の推進	② 現職教育の実践を図ったか。	① 第2次那珂川町ハッピースローププランの推進を図ったか。	①各部会などで積極的に活動がなされ、推進されていた。	①特別支援教育については、小中の交流をもっと行えるとよい。教員が生徒の発達段階についてもっと知り、顔見知りになれるくらい交流があると、生徒も安心して進学できるのではないかと。
			③ 学力向上コーディネーターの活用を効果的に行ったか。	③各研修において、有意義な講話をいただくことができた。さらにさまざまな研修を実施してほしい。	
(3) 学びの環境づくり	② 教材教具の整備を行ったか。	① 教室や廊下の掲示の工夫を図ったか。	①校舎改修、新教室に伴い、掲示にも工夫がなされ、見やすいものとなっていた。廊下の掲示物も計画的に更新されていた。	①掲示計画について、さらにユニバーサルデザインを意識した計画があるとよい。	○今後もしっかりと地域を知る活動や体験をできるようにしていただきたいです。 ○発達についての知識を得ることで、支援の充実が図れると思います。 ○学びの環境づくりは、引き続き継続していただき、ICTについての更なる充実が図られることで、生徒達の環境のみならず、先生方の負担軽減になることを望みます。
		③ ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを行ったか。	③ユニバーサルデザインを意識した授業や生徒指導が行われていた。	③ユニバーサルデザインについては、その効果を実感しているので今後も引き続き様々な工夫が必要であると感じている。	
(4) 業務改善の推進	② ICTを活用した業務改善を行ったか。	① 勤怠管理システムの実践を効果的に行ったか。	①デジタル化したタイムカードの導入により、毎日の勤怠管理が習慣化した。	②ICTについてはさらに活用の余地があると感じているので、引き続き研究ができるとよい。	
		③ 確実に正確な事務処理を行ったか。	③正確な事務処理が行われるよう努力した。		